

【アメリカ】米印関係公聴会

海外立法情報課 新田 紀子

* 2014 年 7 月 16 日、上院外交委員会近東・南中央アジア問題小委員会、並びに同年 7 月 24 日、下院外交委員会アジア・太平洋小委員会は、2014 年 9 月のナレンドラ・モディ新インド首相訪米を前に、米印関係に関する公聴会を開催した。日本に関する部分を含めて紹介する。

1 上院外交委員会近東・南中央アジア問題小委員会公聴会

(1) 小委員長、共和党筆頭委員冒頭発言

2014 年 7 月 16 日、上院外交委員会近東・南中央アジア問題小委員会は、「不可欠な (indispensable) パートナー：米印関係の再活性化」と題する公聴会を、官民の証人を招いて開催した。冒頭、ティモシー・ケイン (Timothy Kaine) 同小委員長 (ヴァージニア州、民主党) は、米印関係のさまざまな面での深化を挙げつつ、米印間のパートナーシップの戦略的根拠は、日々重要性を増すばかりであるとして、米印両国は、シリア・イラク、ロシア・ウクライナ、中国・南シナ海 [における問題] など世界における不安定性の高まりに「注意を払い、関心を持ち、解決に役立つために生産的でありたい」と望んでおり、両国関係の重要性は今日のみならず、将来も増大するであろうと述べた。ジェームズ・リシュ (James Risch) 同小委員会共和党筆頭委員 (アイダホ州) は、直接投資の増大、知的財産権保護、米企業のインド原子力市場への参入の課題を指摘する一方、防衛・安全保障面での両国の協力について、インドは軸となる国の 1 つであり、インド太平洋 (Indo-Pacific) 地域の安定の維持に重要なパートナーになりうると述べた。

(2) 日米印 3 国関係、日米豪印 4 国関係

エイミー・シーライト (Amy Searight) 南・東南アジア担当国防次官補代理は、冒頭発言の中で、本公聴会の開催中に行われている環太平洋合同演習リムパック (RIMPAC) 2014 にインドのフリゲート艦が初めて参加 (注 1) しており、2014 年 7 月末に予定 (当時) されている、米国が行っている中で最大の 2 国間海軍演習である米印海上共同訓練マラバール (MALABAR) に、日本も参加すると述べた。

ジョン・マケイン (John McCain) 上院議員 (アリゾナ州、共和党) は、同議員の米印間の戦略的課題に関する直前の質問に対し、ニシャ・ビスワル (Nisha Biswal) 南・中央アジア問題担当国務次官補が中国や日本に言及しなかったことを指摘した。これについて、ビスワル次官補は、日米印 3 か国は非常に強固な関係にあり、2014 年夏に日米印協議第 6 回会合がニューデリーで開催予定であったが、日程が再調整されることになったことに言及し、その一方で、3 国間では情報やその分析の共有だけでなく、積極的な協力分野の検討など、連携が非常に増加していると答えた。

リサ・カーティス (Lisa Curtis) ヘリテージ財団上席調査研究員・元上院外交委員会

専門スタッフは、モディ首相訪米の機会をとらえ、米国が米印関係強化のためにとることができるイニシアチヴの1つとして、アジア太平洋地域での協力を挙げ、①インドは当初、米国のリバランス政策への対応に慎重であったが、2013年4月の中国による国境での挑発事件（注2）によって、アジア太平洋地域における力強い米国の役割という考えについて、より開かれた態度をとるようになったこと、②日米印3国間関係の構築の現実的な機会があると考えており、日印間では、安倍首相がモディ首相と個人的な関係を有していること、さらに、③ヘリテージ財団は、日豪印のシンクタンクとトラック2（注3）の4極対話を行ったことについて述べた。さらに4極対話について、政府間の対話の場は設定されていないが、これらトラック2の対話は、政府間の4極対話を開始する場合に有益であると発言した。

ケイン小委員長に中印関係について尋ねられ、シーライト国防次官補代理は、インドがアジアとの関係を考え、他方で、米国がリバランスを進める中で中国の台頭を含む東アジアにおける課題や機会を考える際に、米印両国の現実的な戦略上の一致点があると述べた。その際、海洋安全保障を課題の1つとして挙げ、マラバールへの日本の参加を、日印関係増大の一例として述べた。

2 下院外交委員会アジア・太平洋小委員会公聴会

2014年7月24日、下院外交委員会アジア・太平洋小委員会は、「モディ政権下の米印関係」と題する公聴会を、政府関係者を招いて開催した。スティーヴ・シャボット（Steve Chabot）同小委員長（オハイオ州、共和党）は、モディ首相の積極的な対外政策を行うとの決意によって、米印間の地政学的な協力が育まれることを希望すると発言し、インドの対日関係深化が、東・南シナ海における中国の一方的な行動に対して、協力の可能性を開くことは有益であると述べた。

注（インターネット情報は2014年10月17日現在である。[]は筆者による補足。）

- ・ 上院外交委員会近東・南中央アジア問題小委員会公聴会の模様 <http://www.foreign.senate.gov/hearings/indispensable-partners_-reenergizing-us-india-ties-04-16-14p>
 - ・ 下院外交委員会アジア・太平洋小委員会公聴会の議事録 <<http://docs.house.gov/meetings/FA/FA05/20140724/102538/HHRG-113-FA05-Transcript-20140724.pdf>>
- (1) インドは、リムパックに、2012年に初めてオブザーバー参加したが、艦船を派遣しての参加は2014年が初めてである。
 - (2) 2013年4月15日、人民解放軍部隊の約30～40名が実効支配線を越えてインド側に侵入した事件。栗田真広「中印国境問題の現状—二国間関係の全体構造の視点から—」『レファレンス』No. 754, 2013.11, pp. 54-55. <http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8358451_po_075404.pdf?contentNo=1>
 - (3) 大学など民間関係者、政府関係者が個人的な資格で参加して率直な意見交換を行うことを指す。